



放射線漏洩線量測定について



放射線漏洩線量測定とは、X線撮影室から外部へ放射線が漏れ出していないかを確認するための放射線量の測定です。

中央放射線部では半年に 1 回、専用の放射線測定器を用いて漏洩線量測定を実施しており、各検査機器に対して撮影室の天井や床、周囲の壁の外側で測定した実効線量が法律で定められた線量限度を下回っていることを確認しています。昨年 1 月の地震の後にも測定を行い、X線撮影室外への放射線漏洩は検出されませんでした。

また、ポータブル装置やイメージ装置は専用のX線撮影室がないため漏洩線量測定は行わず、患者さんを模した器具を撮影しその周辺の散乱線量を測定しています。散乱線量は患者さんから距離が離れるほど減少し、実際にポータブル装置の場合、2m離れた位置では微量であることが確認されています。

これからも定期的な線量測定を通じて、患者さんと職員が安心できる検査環境を維持していきます。

(中央放射線部 大窪梨萌記)

一人ひとりに合わせたケア ～4階東病棟の取り組み～

私たちの4階東回復期病棟では、患者様が安心してご自宅に退院できるよう支援しています。リハビリにも積極的に取り組み、自立や身体機能の回復を目指しています。患者様ご自身の機能を最大限に引き出すため、身体抑制は最小限にとどめ、一人ひとりに合わせたケアを心がけています。

具体的には、身体抑制の必要性を定期的に評価するラウンドの実施、ベッドサイドの環境整備、丁寧な声掛けや観察を行っています。また、リハビリスタッフと合同でケアカンファレンスを定期的に行い、多職種で情報共有と意見交換を行うことで、より質の高いケアを提供できるよう努めています。さらに、身体抑制の必要性や倫理的な課題についても検討する倫理カンファレンスも実施し、患者様の尊厳を守る看護についてスタッフ全員で考えています。



今後も患者様の思いを尊重し、安心・安全な療養生活を提供できるよう、スタッフ全員で環境整備や転倒・転落防止に努めてまいります。また、安全対策の徹底やスタッフへの啓蒙活動も継続し、身体抑制ゼロを目指して取り組んでいきます。

(4階東病棟 高原早苗記)

[illegible]